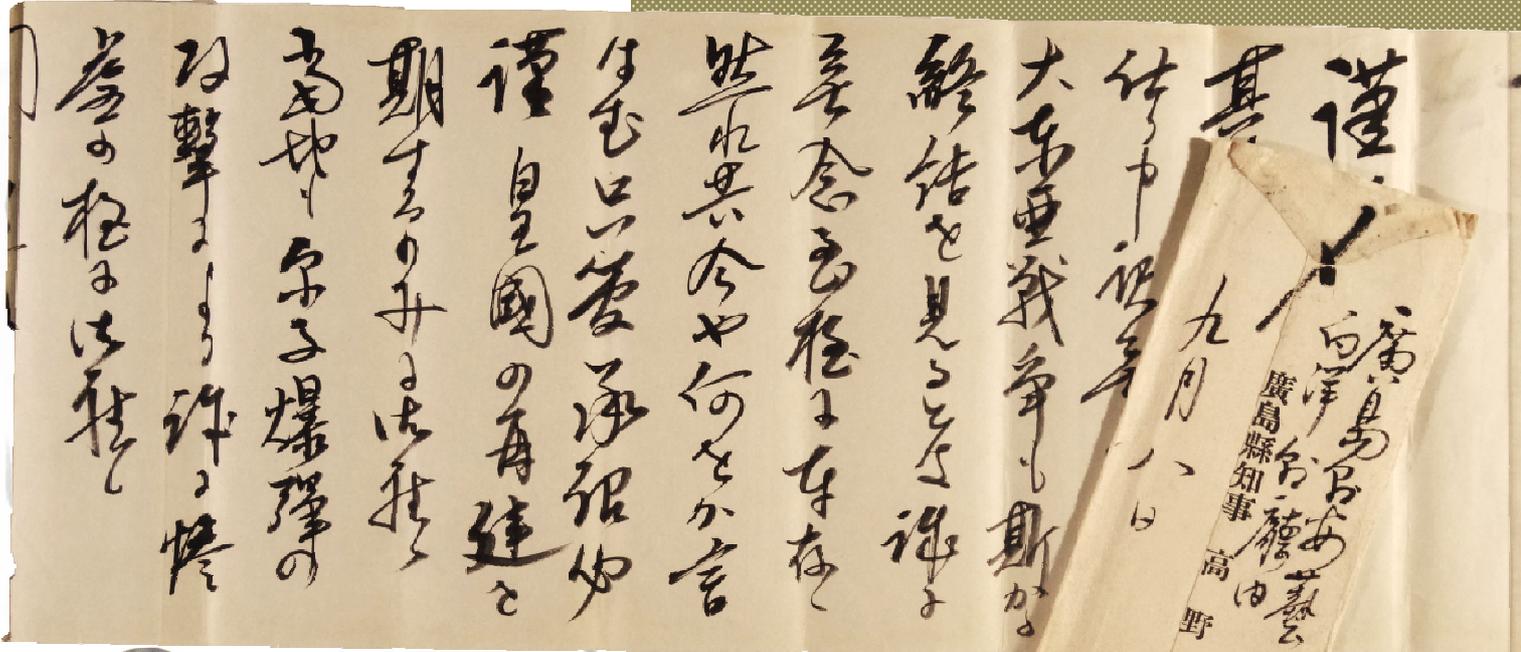


被爆時の県知事 高野源進とその書簡

～ 平成26年 8 / 22(金)



はじめに

昭和二十年（一九四五）八月六日、中国地方の行政・経済の拠点都市であり、軍事都市でもあった広島は、一発の原子爆弾とともに壊滅に等しい大打撃を受けました。当時の広島県知事（官選）はその年の六月に、大阪府次長（現在の副知事）から着任したばかりの高野源進でした。

高野知事は八月六日当日には福山へ出張中で、難を通れました。大塚惟精中国地方総監と栗屋仙吉広島市長はともに被爆死したので、唯一の行政首長でした。知事は原爆投下の報を聞くと、直ちに広島へ向かい、午後六時半頃、県の第一避難所であった比治山の多聞院にたどり着き、県防空本部を設置します。翌七日朝には、猛火の中を下柳町の東警察署まで移動し、そこを仮県庁として、医療・食糧応援の手配など救援活動の陣頭指揮に当たりました。

高野知事の夫人は被爆死しました。知事は八月三十日になって官舎跡に立ち寄り、夫人の遺骸を探しましたが、見つけることはできませんでした。

このたび、原爆投下を挟む前後四通の高野知事書簡が当館へ収蔵されることになりました。いずれも前任地の上司に当たる池田清元大阪府知事に宛てたものです。この書簡からは、戦争末期には民防空の責任者としての危機感を、被爆・終戦直後には、行政の首長としての偽らざる心情を読み取ることができます。第一級の資料とすることができます。

今回の展示では、四通の書簡を中心に、高野知事にもつわる文書を紹介します。（担当 西村 晃）

一 池田清宛高野源進書簡（昭和二十年六月二十日付け）

県知事着任六日後、水主町の県庁から出された書簡。高野知事は、前任地の大阪で、三月十三日夜から未明にかけての大阪大空襲以降、数次にわたる空襲を体験していた。空襲が少なかった広島へも、近日中に大規模な空襲があることは必至であったが、防空態勢は整っていないかった。（七つの）川に分断された広島は、狭い地域に木造建築が密集し、空襲によって火災が発生すれば「如何とも致難き状況」になると、民防空の責任者として焦りを感じていたことが、この書簡から窺える。

謹啓、空襲日に増し
 苛烈凄愴を加ふるの
 時、閣下益々御勇健の
 段奉慶賀一候、私事
 過般広島県知事
 拜命、去る十四日着任
 仕候、大阪府庁在勤
 中は公私格別の御
 懇情御指導賜はり、
 難有厚く御礼申上候、
 閣下御上京中の事とて、
 赴任の際は拝顔の期を
 得ず、誠に残念に奉存候、
 当地は今日迄は空襲も
 比較的少なかりしも、何れ近
 々大空襲あることと覚
 悟致居り候、当地は地
 域狭小、河川多く、殆んど
 全部木造建築にて、
 火災発生せば如何とも
 致難き状況にて、唯
 心のみあせり居り候、乍末
 筆一為邦家閣下の御
 清勝を御祈り申上候
 六月廿日
 高野源進
 池田清閣下

六月廿日
 高野源進
 池田清閣下

比較的少なかりしも何れ近
 々大空襲あることと覚
 悟致居り候、当地は地
 域狭小、河川多く、殆んど
 全部木造建築にて、
 火災発生せば如何とも
 致難き状況にて、唯
 心のみあせり居り候、乍末
 筆一為邦家閣下の御
 清勝を御祈り申上候
 六月廿日
 高野源進
 池田清閣下

謹啓、空襲日に増し
 苛烈凄愴を加ふるの
 時、閣下益々御勇健の
 段奉慶賀一候、私事
 過般広島県知事
 拜命、去る十四日着任
 仕候、大阪府庁在勤
 中は公私格別の御
 懇情御指導賜はり、
 難有厚く御礼申上候、
 閣下御上京中の事とて、
 赴任の際は拝顔の期を
 得ず、誠に残念に奉存候、
 当地は今日迄は空襲も
 比較的少なかりしも、何れ近
 々大空襲あることと覚
 悟致居り候、当地は地
 域狭小、河川多く、殆んど
 全部木造建築にて、
 火災発生せば如何とも
 致難き状況にて、唯
 心のみあせり居り候、乍末
 筆一為邦家閣下の御
 清勝を御祈り申上候
 六月廿日
 高野源進
 池田清閣下

二 池田清宛高野源進書簡（昭和二十年七月二十一日付け）

原爆投下十六日前、下中町の知事官舎から出された書簡。三
 月の東京大空襲以降、国内の主要都市は大規模な無差別爆撃に
 さらされ、六月から七月になると、この書簡にもあるように「連
 日空襲を蒙らざる日無き現状」であった。七月一日には呉市街
 が空襲され、中小都市の総てが焼土と化す中、広島市だけ被害
 がないことを「却って気味悪き様に」高野知事は感じていた。
 急を要する広島市の建物疎開は、五月ごろから三隊の地区特
 設警備隊等、七月には義勇隊も投入して、大規模に実施される
 ようになった。この後、広島地区司令部の強い要請を受け、八
 月三日からは連日、義勇隊・学徒隊を大量に投入して建物疎開
 を行っていた矢先、その日はやってきた。

謹啓、
 戦局愈々苛烈を
 加へ本立連日空襲
 を蒙らるるの目憂き
 現状誠に残念至
 極に存存閣下も亦
 甚しき勇健を蒙り
 是は精勵のより本
 業努め、期命の茹
 子トトも追々食膳
 上々幸と存存

中小都市の總てが
 焼土と化す、昨今
 尚広島市のみはさ
 らる被害も甚なり、却
 つて氣味悪き極感
 せらるる存存、果して
 君も亦亦亦亦亦亦
 なるも目下大々的
 建物の疎開を實施
 中と存存、又蔬菜
 の不足は各地も大阪
 同様と存存、一般市民は
 非常な事と存存

大馬路に因りて官地の利
 用は、大馬路とかり居る
 箱の植付は、昨常の
 煩調を、大馬路
 敷。終るに、昨常
 稍降雨多く心配
 所、是日
 閣下は、興生会
 閣下は、就任の由、半
 島問題の愈々重大
 加ふるの時、将来一層の
 打開に御尽瘁賜
 願ひ申上候
 酷暑の候、閣下には
 為邦家益々御自愛
 被遊、国家の危局
 打開に御尽瘁賜
 はり度御祈り申上候
 七月廿一日
 高野源進 拜
 池田 清閣下

謹啓、
 戦局愈々苛烈を
 加へ、本土連日空襲
 を蒙らざるの日無き
 現状、誠に残念至
 極に奉存候、閣下には
 益々御勇健にて農事
 に御精励の段奉
 慶賀一候、期節の茄
 子、トマトも追々食膳に
 上らるゝ事と奉存候、
 中小都市の総てが
 焼土と化せる昨今、
 当広島市のみは、さし
 たる被害も蒙らず、却
 つて気味悪き様感
 ぜられ居り候、果して
 間に合ふや否や不明
 なるも、目下大々的に
 建物の疎開を実施
 中に有之候、又蔬菜
 の不足は当地も大阪と
 同様に、一般市民は
 非常に苦しみ居り候、
 大阪と同様空地の利
 用に大馬路をかけ居り候
 稲の植付は非常に
 順調に参り、大体適

大馬路に因りて官地の利
 用は、大馬路とかり居る
 箱の植付は、昨常の
 煩調を、大馬路
 敷。終るに、昨常
 稍降雨多く心配
 所、是日
 閣下は、興生会
 閣下は、就任の由、半
 島問題の愈々重大
 加ふるの時、将来一層の
 打開に御尽瘁賜
 願ひ申上候
 酷暑の候、閣下には
 為邦家益々御自愛
 被遊、国家の危局
 打開に御尽瘁賜
 はり度御祈り申上候
 七月廿一日
 高野源進 拜
 池田 清閣下

期に終了致候も、昨今
 稍降雨多く心配
 致し居り候、
 閣下には興生会顧
 問に御就任の由、半
 島問題の愈々重大を
 加ふるの時、将来一層の
 御指導賜はり度御
 願ひ申上候、
 酷暑の候、閣下には
 為邦家益々御自愛
 被遊、国家の危局
 打開に御尽瘁賜
 はり度御祈り申上候
 七月廿一日
 高野源進 拜
 池田 清閣下

謹啓
 其治ははを沙汰の升
 付、中、後、是、
 大東亞戦争も斯が
 終結を、見、こ、と、
 吾念を、存、在、
 然、果、今、や、何、を、
 言、
 僅、皇、國、の、再、建、
 期、を、予、の、升、に、
 為、也、予、の、爆、彈、の

三 池田清苑高野源進書簡（昭和二十年九月七日付け）
 被爆一か月後、安芸郡府中町向洋の東洋工業（現マツダ）
 内に移転した県庁から出された書簡。冒頭では敗戦の無念
 さを吐露しつつも、終戦の詔書を承り、皇国の再建を期す
 という覚悟が窺える。
 原爆により水主町の県庁は倒壊した。出勤中、又は通勤
 途中であった職員六〇六名の死亡が確認された。無事なの
 は出張していた職員だけで、残る全職員が重軽傷を負った
 と言つても過言ではなく、まだ相当数の死者を出すだろう
 と覚悟している（最終的には一三一名）。原爆の威力を目
 の当たりにして、敗戦直後でもあり、「科学の研究こそ将来
 戦争の勝負を決する唯一無二の戦法」と感想を述べる。

謹啓、
 過般の当地戦災に
 対しては御懇篤なる
 御見舞賜はり、奉^は二
 拝謝^た一候、
 閣下には過般貴族
 院議員に勅選賜は
 りし処、大東亜戦争
 の敗戦の御責任を
 痛感致さるゝと共に、
 海南島に残留せらる
 同胞の心中を拝察
 し被^あレ遊^は遊、今般御辞
 任被^あレ遊候御趣、御心
 境の清澄さ、御人格
 の御高風さ、只々頭
 の下る次第に御座候、
 吾等後輩にとりて
 男子の進退すへき
 よき教訓を与へられ候、
 何れ今明年中には
 政治上、経済上、国内は
 混沌たる状況を招来
 すべく、甚た憂慮に
 不堪^た次第に御座候、
 閣下の御奮起を願ふ
 の日も遠からざるべく、切に

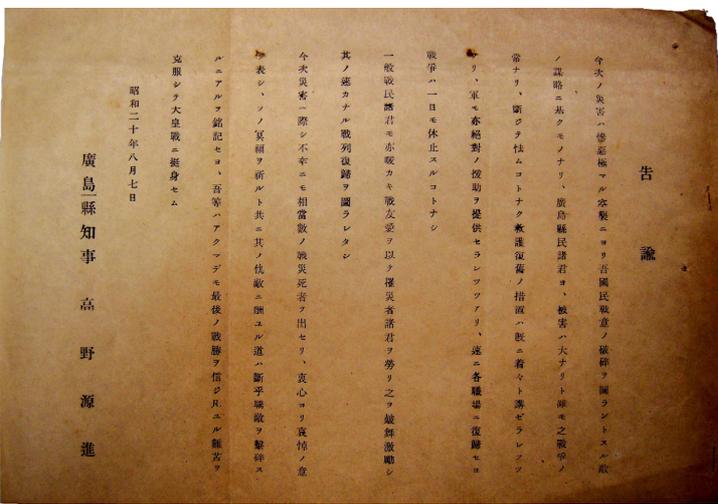
御自愛、御加養賜
 はり度御願ひ申上候、
 右取り急ぎ御礼申上候
 十月四日
 高野源進 拝
 池田 清閣下
 侍史



告 諭

今次ノ災害ハ惨悪極マル空襲ニヨリ吾国民戦意ノ破砕ヲ図ラントスル敵
 ノ謀略ニ基クモノナリ、広島県民諸君ヨ、被害ハ大ナリト雖モ之戦争ノ
 常ナリ、断ジテ怯ムコトナク救護復旧ノ措置ハ既ニ着々ト講ゼラレツ
 アリ、軍モ亦絶対ノ援助ヲ提供セラレツアリ、速ニ各職場ニ復帰セヨ、
 戦争ハ一日モ休止スルコトナシ
 一般戦民諸君モ亦暖カキ戦友愛ヲ以テ罹災者諸君ヲ勞リ之ヲ鼓舞激励シ
 其ノ速カナル戦列復帰ヲ図ラレタリ
 今次災害ニ際シ不幸ニモ相当数ノ戦災死者ヲ出セリ、衷心ヨリ哀悼ノ意
 ヲ表シ、ソノ冥福ヲ祈ルト共ニ其ノ仇敵ニ酬ユル道ハ断乎驕敵ヲ撃碎ス
 ルニアルヲ銘記セヨ、吾等ハアクマデモ最後ノ戦勝ヲ信ジ凡ユル難苦ヲ
 克服シテ大皇戦ニ挺身セム
 昭和二十年八月七日
 広島県知事 高野源進

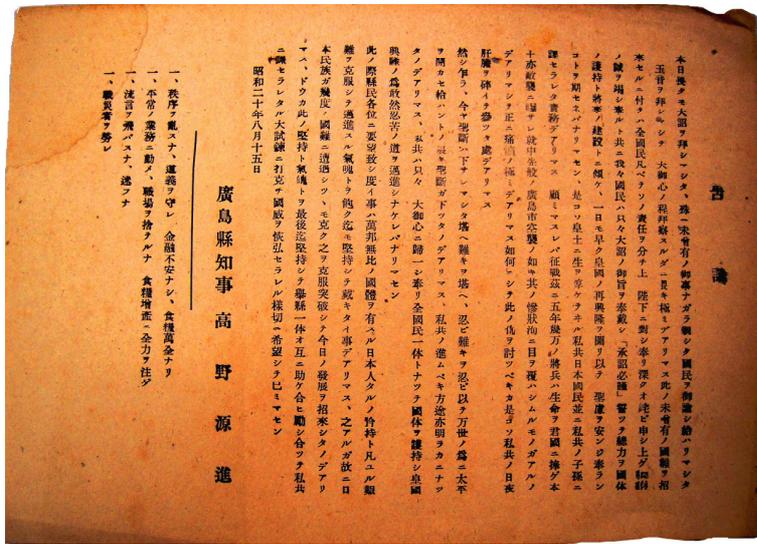
五 原爆投下後の県知事告諭(昭和二十年八月七日)
 原爆投下の翌日、高野知事の名前で出された告諭
 のピラ。広島中央放送局は、この告諭を午前九時、
 一〇時、一一時に原放送所(祇園)の予備スタジオ
 より放送した。原爆により広島は壊滅状態となつた
 が、なおも戦争は継続中であり、職場への復帰を求
 めた。県民に与える影響を極力抑え、人心を安定さ
 せるためにこの告諭が必要であつた。
 (広島市文書 一九八八〇五一)



六 終戦に関する県知事告諭 (昭和二十年八月十五日)

終戦の詔勅が下された八月十五日、高野知事の名前が出された告諭のビラ。十日の御前会議で国体護持を条件にポツダム宣言受諾が決定され、十五日正午、終戦の詔書が天皇自らにより国民に発表された。それを請けてこの告諭では、人心安定のため秩序維持を訴えるとともに、国体護持と国家再建のため試練を克服するよう、県民に呼びかけた。

(巨春市文書 一九八八〇五—三)



広島県知事 高野源進

- 一、秩序ヲ乱スナ、道義ヲ守レ 金融不安ナシ、食糧萬全ナリ
- 一、平常ノ業務ニ勤メ、職場ヲ捨アルナ 食糧増産ニ全力ヲ注グ
- 一、流言ヲ飛バスナ、迷フナ
- 一、戦災者ヲ労レ

昭和二十年八月十五日

広島県知事 高野源進

- 一、秩序ヲ乱スナ、道義ヲ守レ 金融不安ナシ、食糧萬全ナリ
- 一、平常ノ業務ニ勤メ、職場ヲ捨アルナ 食糧増産ニ全力ヲ注グ
- 一、流言ヲ飛バスナ、迷フナ
- 一、戦災者ヲ労レ

告諭

本日畏クモ大詔ヲ拝シマシタ、殊ニ未曾有ノ御事ナガラ親シク国民ヲ御諭シ給ハリマシタ、玉音ヲ拝シマシテ 大御心ノ程拝察スルダニ畏キ極ミデアリマス此ノ未曾有ノ国難ヲ招来セルニ付テハ全国民凡ベテソノ責任ヲ分チ上 陛下ニ対シ奉リ深クオ詫ビ申シ上ゲ猥狝ノ誠ヲ竭シ奉ルト共ニ我々国民ハ只々大詔ノ御旨ヲ奉戴シ「承詔必謹」誓ツテ総力ヲ国体ノ護持ト将来ノ建設ト傾ケ、一日モ早ク皇國ノ再興隆ヲ図リ以テ 聖慮ヲ安ンジ奉ランコトヲ期セネバナリマセン、是コソ皇土ニ生ヲ享ケテキル私共日本国民並ニ私共子孫ニ課セラレタ責務デアリマス 顧ミマスレバ征戦茲ニ五年幾方ノ將兵ハ生命ヲ君國ニ捧ゲ本土赤敵襲ニ曝サレ就中先般ノ広島市空襲ノ如キ其ノ惨状洵ニ目ヲ覆ハシムルモノガアルノデアリマシテ正ニ痛憤ノ極デアリマス如何ニシテ此ノ仇ヲ討ツベキカ是コソ私共ノ日夜肝胆ヲ砕イテ参ツタ処デアリマス

然シ乍ラ、今ヤ聖断ハ下サレマシタ堪ヘ難キヲ堪ヘ、忍ビ難キヲ忍ビ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カセ給ハントノ畏キ聖断ガ下ツタデアリマス、私共ノ進ムベキ方途亦明ラカニナツタノデアリマス、私共ハ只々 大御心ニ歸一シ奉リ全国民一体トナツテ国体ヲ護持シ皇國興隆ノ為敢然忍苦ノ道ヲ邁進シナケレバナリマセン

此ノ際県民各位ニ要望致シ度イ事ハ万邦無比ノ国体ヲ有スル日本人タルノ矜持ト凡ユル艱難ヲ克服シテ邁進スル気魄トヲ飽ク迄モ堅持シテ戴キタイ事デアリマス、之アルガ故ニ日本民族ガ幾度ノ国難ニ遭遇シツ、モ克ク之ヲ克服突破シテ今日ノ發展ヲ招来シタノデアリマス、ドウカ此ノ堅持ト気魄トヲ最後迄堅持シテ挙県一体才互ニ助け合ヒ励シ合ツテ私共ニ課セラレタル大試練ニ打克テ国威ヲ恢弘セラレル様切ニ希望シテ已ミマセン

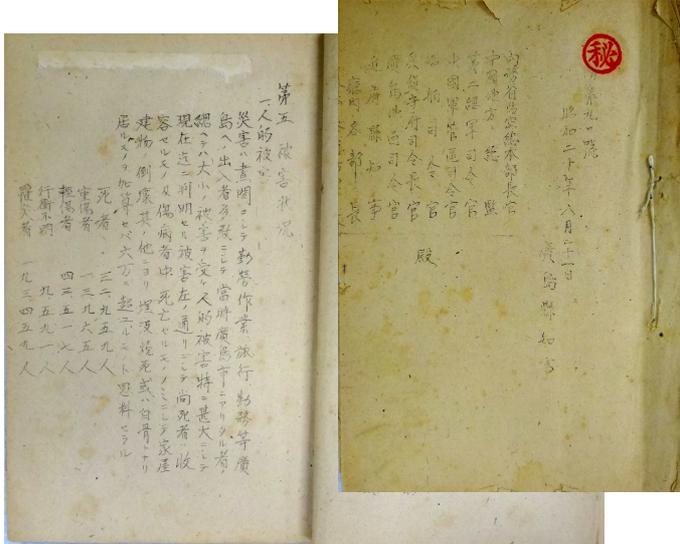
七 八月六日広島市空襲被害並ニ対策措置ニ関スル詳報

(昭和二十年八月二十日)

広島県知事が原爆被害に關して内務省や警察署などへ送付した報告書。粗悪な紙のタイプ印刷で、冒頭の㊟印は極秘文書であったことを示す。

投下弾は「ウラジウム原子爆弾極メテ高性能ヲ有スル新兵器」で、死者は三三、九五九人であるが、「家屋建物ノ倒壊其ノ他ニヨリ埋没焼死、或ハ白骨トナリ居ルモノヲ加算セバ六万ヲ超ユルモノナリト思料セラル」と推定する。

(亘春市文書 一九八八〇五―四)



高野源進知事

(広島県編『広島県庁原爆被災誌』)



被爆後の広島県庁舎 (昭和20年末頃)

(県行政文書 S01-2009-738 所収)

高野知事に関する証言

■ 涌島秀好氏 (当時・経済第一部農務課)

... (8月7日) そのうち、いろいろな情報が来る。県職員は秋吉内政部長夫妻を初めほとんどが全滅、大塚総監は官舎で爆死、粟屋市長も爆死された。この相つぐ悲報に知事はことのほか悲痛な面持ちである。そうしているところへ、「知事さんまことに申しあげにくいことですが、あなたの奥さまも官舎でお亡くなりになりました」と、だれであったか報告をした。

ところが知事は「ああ...そうですか...」とただ一言。あとは市民救済の計画や指揮...この簡単な一語!! そばでじっとこれを見聞していた私は、これこそが長たり責任者たる者の心構えかと、感涙とともに思わず頭が下がり身が震えた。

■ 竹内喜三郎氏 (当時・豊田地方事務所)

時の知事高野源進さんは、被爆の前日は福山地方に出張されているが、その留守を守っておられた奥さまは被爆死され、ついにご遺がいもわかっていない。

忘れもしないが、被爆後の八月三十日中国軍管区司令部の慰霊祭に参列された帰途、初めて高野さんは中町の官舎の国泰寺の東側焼け跡に立ち寄られ、奥様のご遺がいを探されたが、ついに見当らず、焼けうせた時計や勲章のつり金具を見て、「この辺が居間だったかなー」とただ一言。そばにいた私は、胸刺さる思いをしたことを思い出す。

広島県編『広島県庁原爆被災誌』(広島県, 1976) より

高野源進と広島県知事在任中の関係年表

年代	西暦	事 項
明治 28 年	1895	3 月 12 日 福島県北会津郡北会津村で農業を営む高野源八の長男として誕生。
大正 11 年	1922	11 月 文官高等試験行政科に合格。
大正 12 年	1923	3 月 東京帝国大学法学部法律学科(独法)を卒業。
		4 月 警視庁警衛部警衛課を皮切りに、神田万世橋や本郷駒込警察署長、宮城県特高課長、警視庁警務課長兼企画課長、滋賀県や茨城県警察部長、警視庁刑事部長、愛知県や大阪府警察部長、警視庁警務部長を歴任(昭和 14 年9月まで)。
昭和 16 年	1941	1 月 山梨県知事に任命。
昭和 17 年	1942	7 月 陸軍司政長官に転任。8 月にビルマ行政政府官房長。
昭和 18 年	1943	8 月 陸軍省軍務局付。11 月に防空総本部業務局長。
昭和 19 年	1944	7 月 大阪府次長に就任。
昭和 20 年	1945	6 月 10 日 広島県第 42 代知事に就任。
		6 月 22 日 呉市と安芸郡音戸町が空襲される(7 月 1 日・24 日・28 日にも呉市等空襲)。
		7 月 2 日 高野県知事、呉空襲に際し防空態勢の強化、職場の死守を県民に訴える。
		8 月 3 日 中国地方総監と高野県知事、広島地区司令部の要請により、建物疎開への義勇隊・学徒隊の大量投入を決定。連日義勇隊約3万人、学徒隊1万5千人の出勤を命令。
		8 月 6 日 原爆が投下される。高野県知事は福山へ出張中で、夕刻に比治山多聞院へ帰着。警察部長が県防空本部を同院へ設置。
		8 月 7 日 県庁を広島市下柳町へ移転する。高野県知事、告諭を発表。広島警備本部が指揮のもと、東警察署内で救護活動の調整や食糧の放出を指示。
		8 月 15 日 戦争終結の詔書を放送。高野県知事、終戦に関する告諭を発表。
		8 月 20 日 県庁を安芸郡府中町の東洋工業(現マツダ)へ移転。
		9 月 3 日 広島県主催の原子爆弾症講演会を開催。東京帝大の都築正男・三宅仁が講演。
		10 月 11 日 高野県知事が警視総監に転じ、中国地方総監の児玉九一が県知事を兼務。
昭和 21 年	1946	1 月 警視総監を辞任する。
		9 月 公職追放となる(昭和 26 年8月まで)。この年に弁護士登録を行い、弁護士となる。
昭和 44 年	1969	1 月 4 日 死去。享年 73。

秦 郁彦編『日本近現代人物履歴事典』(東京大学出版会, 2013), 歴代知事編纂会編『日本の歴代知事』第3巻(上)(同会, 1982), 『広島県史』年表(広島県, 1984)などによる。

《広島県立文書館 第1回収蔵文書の紹介》 被爆時の県知事 高野源進とその書簡

期 間 平成 26 年 4 月 4 日 (金)
～8 月 22 日 (金)

場 所 広島県立文書館展示室
〒730 - 0052 広島市中区千田町 3-7-47
広島県情報プラザ 2 階

参考文献

『広島県史』原爆資料編(広島県, 1972)
『広島県庁原爆被災誌』(広島県, 1976)
『広島県史』近代2(広島県, 1981)
『ひろしま復興・平和構築研究事業報告書』(国際平和拠点
ひろしま構想推進連携事業実行委員会, 2014) など